

## 韓国・高麗大学英字新聞サークルとの交流会を終えて

濱口 亜沙子

高麗大学英字新聞サークル the Granite Tower との交流会が決まったのは今年の3月の初めだった。ちょうど前年末に安倍首相が靖国神社を参拝した影響もあり、日韓関係の緊張が高まっているとする報道も流れる中、私は韓国に行くことに一抹の不安を感じていた。

しかしそのような思いとは裏腹に高麗大学の学生達は私達を温かく迎えてくれた。交流会は、彼ら行きつけのお店で、サムギョプサル（韓国式豚焼肉）を囲みながらお互いのサークル活動や学校生活について情報交換から始まった。メファス（梅酒）を飲みながら日本の若手俳優や K-POP のアーティストの話で盛り上がり、冗談を言い合う彼らに親近感を覚えた。一方で、自身の将来について真剣に語る彼らの英語能力の高さとエネルギーに驚き、尊敬の念を抱いた。彼らが語る自身の未来像は決して理想論にとどまるものではなく、実現することを予感させる力を持っていた。彼らはすでに自分の中に確固たる軸を持っており一人の人間として成熟していた。

周知のように日本と韓国の間には、竹島問題や従軍慰安婦問題をはじめとして、領土や歴史認識についての問題が山積している。どれも一過性のものではなく、私たちの生まれるずっと前から続く歴史に根差した問題であることから解決するのは容易ではない。

実際、私がソウル市内の小さなゲストハウスに泊まった際、ドキッとする体験をした。私達がゲストハウスに到着したのは、深夜であったためゲストハウスはすでに閉まっていた。玄関の門をたたき出てきたのはおよそ70歳代のおじいさん。私達が事情を説明し部屋のカギをもらおうと英語で会話をするものの返ってくるのは韓国語だけ。しかし、しばらくして困り顔の私達を見かねたのか、突然流暢な日本語で「いま担当のものを呼ぶから、そこで座って待つように」と言ってオーナーを呼びに部屋の奥へと消えた。私達は、おじいさんの話す日本語のあまりの流暢さに驚き、思わず顔を見合わせた。

日韓交流も盛んになった現在、もちろん日本語を話せる韓国人は沢山いる。しかし、70歳代とおぼしきおじいさんが日本語を自主的に習得したとするにはかなり高齢であり、そして何より日本語を話すのを拒んでいる印象を受けたことから、そこに歴史的な経緯があるのではと感じずにはいられなかった。教科書で学んだ「日韓併合」、「創始改名」、「日本語の強要」、という言葉が瞬時に頭に浮かんだ。残酷な歴史的事実の結果を目の前に、私は戦慄を覚えた。

両国の関係改善には、国民の意識レベルから変えていく必要があると考える。そこで私達ができることは民間、個人レベルでより具体的な関係を築き、問題を自分のほうに引き寄せて考えることではないだろうか。これから私が「韓国」について考える時、今回出会った高麗大学の学生やゲストハウスのおじいさんの顔を必ず思い浮かべるだろう。こうした具体的な関係を築いていくことが、両国民の意識を変えていく最善の方法だと思う。

2014年3月の産経ニュースには、韓国の世論調査機関、韓国ギャラップによる調査として、『「日韓関係が今後、改善されるべきだ」との回答が75%に上ったほか、「現段階で両国の懸案を解決するため日韓首脳会談が必要」との回答が52%と、不要の40%を上回った』との記事が掲載され、韓国側からも関係改善を期待する未来思考的な結果もうかがえる。

時差もなく、東京からわずか 2 時間半のフライトで行けるお隣の国、韓国。自分の足で訪れ、学生と交流し、エネルギッシュで素敵な国だと思った。日韓の関係が真に雪解けを迎えることを心から願っている。